

「Journal of Agricultural Meteorology」の現状報告

日本農業気象学会英文誌編集委員会

委員長 谷 晃

1. はじめに

平素は英文誌「Journal of Agricultural Meteorology」(JAM)の発行にご協力いただきありがとうございます。論文の投稿、査読などの審査協力、編集委員としての審査担当作業・校正作業など様々な局面で、会員の皆様の貢献によりJAMを継続的に運営・発行できていることに感謝いたします。ここ数年において、JAMに関して行った複数の改革や取り組むべき課題、インパクトファクターの現状について、紙面を借りて報告いたします。

2. JAMのインパクトファクター

英文誌JAMは、2013年11月にClarivate Analytics社(旧トムソン・ロイター社)のScience Citation Indexに登録され、同社Journal Citation Reportsにおいて2015年の出版物以降インパクトファクター(IF)が公表されています。IFの値は、2015年の0.467から、2016年0.925、2017年1.037、2018年1.095、そして今年6月に発表された2019年の値が1.477と、順調に上昇しているように見えます。私が編集委員長に就任する以前の、10年間以上におよぶIF獲得までの編集委員会や学会関係者の長い努力の賜物であることは言うまでもありません。

IF値をジャーナルの指標として妄信し、過度に一喜一憂する必要はないと思っていますが、研究者ポストの獲得や昇進には、IF付きのジャーナルへの論文掲載本数が重要な尺度となりつつあります。本学会でIF付きの英文誌を持っている現状は、博士学生や若手研究者を育成するという学会の重要な目標のひとつに貢献できるでしょう。

しかし、このIFの値は簡単に下降する場合があります。IF値の計算は、以下の式に基づき行われます。

$$\text{JAMの該当年のインパクトファクター} = A / B$$

ここで、Aは該当年の前年と2年前にJAMに掲載されたすべての論文が該当年中に引用された総件数であり、Bは前年と2年前にJAMに掲載された論文総数となります。例えば、今年6月に発表された2019年のIF値は、2019年に世界で発表された論文が、2017年と2018年にJAMに掲載された論文を引用している総数を分子に取ります。つまり、JAMに掲載された論文が世界の研究者から多く引用されることが重要となります(自己引用も含む)。JAMにたくさんの論文が掲載されても、それらがあまり引用されないとIF値は低くなります。IF値を高く維

持するために、世界の研究者の参考になるユニークで質の高い論文の掲載が大事であるだけでなく、会員の皆様によるJAM掲載論文の積極的な引用をぜひともお願いいたします。私としては、JAMのIF値を一定値以上維持し続けることは、簡単ではないと感じています。

3. ジャーナルコンサルティングによる改革

メール広報でもお知らせしたとおり、昨年度JSTのジャーナルコンサルティング事業に採択され、専門業者(豪INLEXIO社)のコンサルティングを受けました。IF値を一定値以上維持しながら、安定的な発行を行うために、以下のような指摘を受けました。

JAMの完全オープンアクセス化(著作権の著者帰属を含む)

Journal Policyの整備(Information to contributorを中心に)独立した学会誌HPの開設・運営

編集体制の強化(海外編集委員の新設)

会計基盤の安定化

これまでのJAMはフリーアクセスジャーナルでしたが、完全なオープンアクセスジャーナルではありませんでした。77巻1号からは、著作権を学会に譲渡せず著者帰属とし、二次利用については制限が最も少ないCC-BY(クリエイティブ・コモンズバージョン4.0)ライセンスを導入します。ヨーロッパを中心にオープンアクセスジャーナルへの投稿が推奨されており、これによりJAMは完全なオープンアクセスジャーナルとなり、会員だけでなく世界の研究者から論文投稿先としてより選択されるようになることを期待しています。

これに先だって、2020年11月1日には投稿規程を一新し、原稿作成要領と一体化した「Journal Policy」を発効します。「Journal Policy」のうち投稿規程に相当する箇所は従来のものから大幅に内容が拡充されていますが、これはオープンアクセス化とともに昨今の世界的な潮流である審査・発行プロセスの透明化に対応するためのものです。

独立した学会誌HPの開設・運営については、今年中に着手しますが、編集体制の強化(海外編集委員の新設)と会計基盤の安定化に関しては、2名の海外在住日本人研究者を編集委員に加えたことを除き、十分な対応はできていません。今後、JAMを世界的なジャーナルにまで高めるのか、学会のジャーナルとしての位置づけを重要視しながら会員のための会員による運営を継続するか慎重に検討せねばなりません。前者の場合、IF値は低くても3以上を目指すこととなりますが、IF上昇に伴い投稿数が増えれ

ば会員による編集・論文審査体制では論文をさばききれなくなり、大手出版社へジャーナル運営を委託することも視野に入れねばなりません。後者の場合、IF 1～2の維持が目標になるかと思しますので、同分野のジャーナル中で上位を目指すことは難しいかもしれません。今後のJAMの目指す方針により、コンサルティングでの指摘事項への対応も異なります。会計基盤の安定化に関連して、冊子体の廃止（JAMの完全オンラインジャーナル化）についても早急に具体的な検討をします。

以上、英文誌JAMのインパクトファクターの現状とジャーナルコンサルティングの指摘を受けて行った複数の改革や課題について報告させていただきました。今後も会員の皆様には、研究成果を積極的にJAMへ投稿していただきますようお願い申し上げます。